

七宝児童館

年間目標

- ・ 親子の関わりが豊かになるような遊びや活動を提供する。
- ・ 子どもたちが体験的に学んでいけるような遊びや生活の場を提供する。
- ・ 児童館の来館人数を増やす。

【活動内容】

- ・ ちびっこあつまれ、コアラ教室では親子でタオルを使った遊びや膝に乗せて行える遊びなど、触れ合う機会を多く作るようにした。工作あそびにおいても、ただ作って終わるのではなく、家にあるものでもう一度親子で作ってみようと思えるものを取り入れていった。また、育児相談にのったり、他の親子との橋渡し役にもなっていた。
- ・ 小学生、幼児の行事では遊びを提供しながらも、子どもたち主体で考えて遊べるように誘導したり、一人ひとりのアイデアを大切にしたりしていった。
- ・ 毎週木曜日のチャレンジ DAY では、体を動かす遊びと頭を使う遊びを交互に取り入れた。製作物は季節感を感じられるものや、子どもの意見を取り入れたものを提供していった。

【反省・課題】

- ・ ちびっこあつまれの音楽あそびでは、音楽付きの絵本が好評で何種類か読み聞かせると毎回の楽しみにつながったようで喜んで来館する姿が見られた。今後も、子どもに好評だったものは定期的に取り入れながらドレミマットや絵描き歌等新しいものにも触れることで楽しい場所になるようにしていく。
- ・ 放課後子ども教室に参加している子が年間の登録制なので、こちらの行事に参加出来なくて残念がる声があった。放課後子ども教室と連携を図り、同じ曜日でも週をずらすなど検討していく。
- ・ 児童館まつり、クリスマス会はコロナ禍を考慮して入場時間を分散させて、多くの利用者に来てもらえるように配慮していった。来年度も利用者が楽しく安心して過ごせる環境を作るために職員間でアイデアを出し合いながら計画を進めていく。

【次年度へ向けての方針】

- ・ 保護者からのサインを見逃さず、様子を見ながら声を掛けていくことで育児相談を持ち掛けられることも増えていった。話したい時に気軽に立ち寄れる、ほっとできるような場所になれるように、これからも笑顔で迎えていく。
- ・ ちびっこあつまれやコアラ教室は友だち同士で参加する方も多し。なかなか輪に入れない保護者もいるので、そういった方への配慮も忘れず、厚生員が保護者同士の橋渡し役になれるよう、子どもの話などから話題を広げて話すきっかけを作っていく。
- ・ 遊びがマンネリ化しないよう、子どもの意見を聞いたり、保育雑誌やネットの情報も活用して新しい遊びを取り入れて、利用者の満足度につなげていく。

美和児童館

年間目標

- ・ 親子の関わりが豊かになるような遊びや活動を提供する。
- ・ 子どもたちが体験的に学んでいけるような遊びや生活の場を提供する。
- ・ 児童館の来館人数を増やす。

【活動内容】

- ・ 乳幼児においては、ちびっこあつまれやコアラ教室での活動を通して、友達や親子でふれあう機会の提供をしてきた。子ども同士はもちろん保護者同士の関わりも増えつつ参加する様子がうかがえた。
- ・ 小学生行事においては、身近な廃材、様々な技法・手法を用いて、製作や遊びを展開し普段経験できないような体験や新しい気づきにつなげることを主に取り入れてきた。
- ・ 昨年度に引き続きのコロナ禍であり、利用者全体を通して予防の意識が薄れているように感じたので、丁寧に声掛けをしたり、掲示物を通して訴えかけたりしてきた。また、感染症が落ち着いてきた時期からは制限を緩和し、館内の利用方法や玩具の取り扱いを見直して利用しやすい児童館作りに努めてきた。
- ・ 保護者からの相談もあったので、機会を観ながら相談業務にも積極的に取り組んできた。

【反省・課題】

- ・ 様々な行事がある中で、厚生員が主体となって企画・進行を進めてきたが、【乳幼児】【小学生】が対象の行事ばかりであった。中には中学生からも参加をしたいという声があったので、「お化け屋敷」では数名の学生にボランティアとしてお化け役をお願いした。しかし、ボランティアはその行事のみになってしまったので、来年度は継続的にいろんな学年の子ども達が主体となって行事を進めていけるように考え、進めていきたいと思う。
- ・ 利用者の幅が広く、乳児から中学生までが主となっている。そのため、土曜日などは利用が重なることが多い。そんな中、(遊戯室内に幼児コーナーの区画はあるが)ワンフロアの為、遊び方の違いで、危険性が高くなってしまい、保護者からは不安の声が時折だが聞こえた。厚生員側も、危険になりそうな遊び方や様子の時は声をかけたり、一緒に遊びながら回避できるよう努めたりしてきた。小中学生児童も、周りをよく見ながら遊んでいる様子が伺えるが、全体が安心して遊べる、来館できる環境作りを考えていく必要がある。

【次年度へ向けての方針】

- ・ 様々な年齢の子どもが主体となって、児童館の行事を進めたり、参加できる機会を少しずつ増やしていきたいと考えている。(行事の企画や、ボランティアなど)
- ・ 利用者全員が安心安全に来館したり充実した遊びができたりするような環境作り(はっきりとした区画分けや一緒に遊べるような活動)を進めていく。

甚目寺中央児童館

年間目標

- ・ 親子の関わりが豊かになるような遊びや活動を提供する。
- ・ 子どもたちが体験的に学んでいけるような遊びや生活の場を提供する。
- ・ 児童館の来館人数を増やす。

【活動内容】

- ・ 幼児事業、ちびっこあつまれやコアラ教室では子ども達の積極性を取り入れ、体操をする時、前に出て先生と並んで行いたい子は前に出てきてもらい体操をした。昨年度までは保護者のそばから離れなかった子ども達の成長が見られた。また歌あそびでは、スケッチブックシアターを作り、絵を見ることで歌をイメージできるよう工夫し楽しく歌を覚えられるようにした。
- ・ 小学生事業では、昨年子ども達の参加の多かった事業を今年も行い今年も多く子ども達が参加してくれた。製作の事業では、作品を最後まできれいに仕上げたいという思いを大切に、出来る限り気持ちに寄り添った対応を心がけた。

【反省・課題】

- ・ 幼児事業では毎回同じことの繰り返しばかりではなく、パネルシアター、スケッチブックシアター等を行い、子ども達参加型の遊びや知育的な考える遊びも取り入れた事業を企画したところ楽しんでもらった。
- ・ 小学生事業は、学年下校などがあり多く子ども達に利用してもらうためには、学校からの下校時間を考え事業を行う曜日や時間など変更していくことも検討していく。今後も学校と連携を取るように子ども達に親しみを持って遊びに来てもらえる児童館にしていきたいと思う。

【次年度へ向けての方針】

- ・ 前年度同様、今後も楽しめる活動内容を考え、日々勉強し魅力ある児童館にしていきたい。
- ・ 小学生事業は、今年度は協力とテーマを決めて行おうと考えていたが、コロナ禍で人数制限や三密を配慮した事業を行ったため協力というテーマでは事業ができなかった。次年度もテーマを決め新しい生活様式を配慮して事業を行っていこうと思う
- ・ 人数制限は緩和されてきているが児童館を知ってもらうため、次年度も小中学校に児童館だよりの掲示を引き続きお願いしていく。また図書館など市内の公共施設にもポスターなど掲示を依頼していきたいと思う。

甚目寺南児童館

年間目標

- ・ 親子の関わりが豊かになるような遊びや活動を提供する。
- ・ 子どもたちが体験的に学んでいけるような遊びや生活の場を提供する。
- ・ 児童館の来館人数を増やす。

【活動内容】

- ・ 幼児親子を対象の遊びは、童謡の伝承を紡いだり、楽器の音を楽しんだり、音楽に合わせて踊ったり、子どもたちが退屈した時などに、遊べるような手遊びをした。
また、なるべく童謡などの音に親しめるようにし、文化の伝承に努めた。
工作あそびは、季節を考慮し、月年齢に合った製作を親子で楽しんでできるようにした。
運動遊びは、身近な物やおもちゃを使って遊ぶことができることや親子で体を使って遊ぶことを伝え、子どもが楽しめる遊びを提唱した。
- ・ 小学生には、楽しめることを目的としてさまざまな遊びや経験、工作などを実施した。

【反省・課題】

- ・ ちびっこあつまれの今年度は、月年齢が低い子が多かったにもかかわらず、親の協力で落ち着いて活動ができた。成長に従い、楽しく踊ったり、紙芝居やパネルシアターを観れるようにしていく。
- ・ 月齢に合わせて、集中時間が長くなっていけるような取り組みを考えてかなければならない。
- ・ 子どもの成長などに伴った悩みなどの相談に応じ、対応を共に考えていかなければいけないと感じた。
- ・ 親同士が、仲良くなり、ともに子どもたちを育てていけるような環境を継続して広げていく。
- ・ 小学生は、強制的に参加をさせず、楽しめて興味が持てるものを今後は考えていきたい。

【次年度へ向けての方針】

- ・ ちびっこでは、親が楽しめるもの、親の悩み、要望などに答えていけることを心がけていきたい。
- ・ 小学生には、居心地の良い空間を提供する中で、自発的製作やあそびを構築できるようにしていきたい。
- ・ 親が楽しめ、外出先でも、帰宅した後も親子で遊ぶ、手遊びや歌、製作などで会話が弾むようにしていきたい。
また、家族で子どもの成長の様子を共有できるものや作品をたくさん提唱したいと思う。

甚目寺北児童館

年間目標

- ・ 親子の関わりが豊かになるような遊びや活動を提供する。
- ・ 子どもたちが体験的に学んでいけるような遊びや生活の場を提供する。
- ・ 児童館の来館人数を増やす。

【活動内容】

- 遊びを通して健全育成を図り、かつ保護者支援に努めた。
 - ・ 乳幼児親子の関わりが持てるような活動や、作って遊ぶことができる活動等を企画・実施した。
 - ・ 何気ない会話の中で（子育ての不安や）愚痴を聞いたり、話し相手になったり相談にのった。（全年齢）
 - ・ （児童クラブ登録児に限らず）子どもの興味のリサーチや参加したくなるような行事の提案、掲示物等を工夫し、自分で選んで主体的に参加できるような行事を企画・実施した。
- ボランティア活動に結びつくような関わりや、簡単な研修を行い、体験できる場を作った。
- 配慮が必要な子や中高校生の遊びや場（居場所）を提供をしたり、保護者の相談にのったりする中で、必要に応じて適切な機関を紹介したり、学校との連携をとったりした。

【反省・課題】

- ・ 来館者同士、保育園や幼稚園・学年という同じくくり以外の人とも交流を持つ機会ができた。乳幼児と小学生が顔見知りになり話したりという姿も見られた。コロナ禍という事で、お年寄りと児童との交流を控えていたが、状況を見て来年度はまた行っていけたらと考える。
- ・ 来館者が増えたり、慣れてくる反面、調子に乗りすぎてしまったりする児童やもめごともあった。普段の信頼関係の中で話をきちんと聞いたり、遊びを通して関わる中で、物事の良悪や人の気持ちを考えること等伝えたり今後も性格や環境等も考慮し、継続的に見守ったり丁寧に関わっていかねばと思う。
- ・ コロナ禍閉館時の情報発信や、来館できない児童や親子への対応が昨年度の反省であったが、QRコードを配布したり掲示をすることくらいしかできず、コロナに限らず児童館について発信する手段を今後も考えていかねばと思う。

【次年度へ向けての方針】

- ・ 安全で皆（どの年齢も）が安心して遊びに来ることができる環境作りを引き続き行う。複合施設でもあるので、異世代交流も状況を見ながら積極的に取り入れる。
- ・ スペースに限りがあるので、単に来館者数を増やすだけではなく「今後もやりたい」「児童館へ行くと楽しいことがあった」「困っていたが安心できた」等の来館者の満足度・安心度を増やし、児童館へ来なくても落ち着いて過ごすことができる親子や児童を増やすことを目標とする。そして遊びたい時や困った時には「そうだ児童館へいこう」という存在でありたい。
- ・ 行事では自発的な気持ちを大切に、また、「何かを作る」「おみやげがある」等の活動も楽しいが、「物より思い出」として、物に頼らない遊びや行事の実施も心掛け、他施設やスタッフ同士で情報を共有したり勉強をする。
- ・ ボランティアについて、まだ頼まれた手伝いをするという域をあまり超えていないが、参加した子に充実感があったと思う。今後もボランティアにつながる活動をしたりボランティアの芽を育てていきたい。

甚目寺西児童館

年間目標

- ・ 親子の関わりが豊かになるような遊びや活動を提供する。
- ・ 子どもたちが体験的に学んでいけるような遊びや生活の場を提供する。
- ・ 児童館の来館人数を増やす。

【活動内容】

- ・ 新型コロナウイルスの状況把握をしながら、行事の人数や遊び場の人数の制限を緩めて行った。
- ・ 来館人数の増加を目指し、行事以外での来館がしやすいように、子どもを見守りながら利用者に声掛けをして厚生員に親しみが持てるように努め信頼関係を築いていった。また、来館される子どもの年齢に合わせて、新しい玩具を提供して利用しやすい環境の提供をしていった。
- ・ 小学生の行事では、昨年度好評だった行事を取り入れ、子どもが満足感をもてるように行った。

【反省・課題】

- ・ 地域のニーズに応じて未就学児の行事に力を入れ、行事の中で利用者と会話することで信頼関係を築き来館人数を増やすことができた。しかし、行事に来て人数制限の関係で参加できない来館者がいたので今後は定員数を増やすか2部制にすることも検討していく。
- ・ 小学生行事の中で、ゲームのルールについて意見を出させて、相談し決めることで、団結する力が身につくようにした。自分達で決めたルールで実践することで満足感が高く、再度行いたいという意見があった。今後も、子どもが達成感や満足感が味わえるように、行事内容の一部ルールを子ども達で決められるような計画をしていく。

【次年度へ向けての方針】

- ・ 利用者のニーズに応じて幼児室の玩具を用意して、遊びが充実するように努めていく。
- ・ コロナ感染状況を確認しながら複合施設のメリットをいかして、お年寄りとかかわる行事を取り入れていく。
- ・ 未就学児の行事により一層力をいれて来館者数の増加につなげる。
- ・ 行事以外でもまた来館したいと思えるように利用者に寄り添い、声掛け等の対応を適切に行い、誰もが居心地が良いと思えるような場所にしていく。
- ・ コロナ感染状況を確認し行事の定員を見直して、行事に参加できる人数を増やせるように努めていく。